



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2018年05月07日 第868号「週刊五十嵐レポート」

戦略は、捨てること、時間の使い方

P.F.ドラッカーは「経営者の条件」の中に、成果をあげるために身につけておくべき習慣的な能力の一つに時間の使い方を言っている。

成果をあげる者は仕事からスタートしない。時間からスタートする。計画からもスタートしない。時間が何にとられているかを明らかにする。次に時間を管理すべく、時間に対する非生産的な欲求を退ける。最後に自由になる時間を大きくまとめる。

飲食業の話。東京と横浜にお店がある。次の出店が名古屋。東京から新幹線で遠距離である。名古屋で人材募集をしたり、人が辞める話になると社長が名古屋まで出張する。1日ばかりである。移動時間は最大のロス。名古屋は東京とは好みも違い、勝手が違う。戦略を知らない社長は気づいていない。

一方、東京の中央区で飲食業をしている話。八丁堀と銀座と築地にお店がある。近距離・狭域営業のおかげで、周辺の認知度が高まり、ブランド化しつつある。また、経営者はじめ、社員は自転車で移動し、各店舗に5分以内に行けるため、移動時間がかからない。社員全員と面談するにも1日で足りる。社員が悩んでいる、辞めそうだというときにもすぐに会って、相談に乗れる。離職率が減ってきた。

その話を聞いた運送業の話。混載を専門にしている運送会社。全売上の1割を占める大口取引先から当日追加の仕事が頻繁に来ていた。そのため、詰め込みの時間や荷降ろしの時間もかかり、時間のロスが顕在化した。他の顧客の荷物の遅配や、他の仕事を断るはめになった。今の人員で対応するのは困難と判断。社長は、捨てることと時間の使い方を考え、勇気を持って、大口取引先に当日追加の品物に関して、お断りを願い出た。大口取引先は理解を示し、それに応じた。

会社は粗利益で生きている。顧客と会っているとき以外の「社内業務時間」「移動時間」からは一銭の粗利益も生まれない。成果を達成するには必要ではあるが、いかに非生産的な時間(浪費)を排除できるか。これは戦略である。

ちょっと
気になる出来事

連休中に「麻布十番」に家族と行ってきた。戦略社長塾に参加されている社長のお店で食事してからしばらく散策していた。

麻布十番にあって、江戸川区の小岩にないもの。

それは「ウーバーイーツ」。散策している間に何人ものウーバーイーツの配達人を見かけた。まだ東京の東部地区(下町)にはない。これがウーバーイーツか・・・。(港区や渋谷の在住の人には珍しくない)

ウーバーイーツとは、ライドシェア大手、米ウーバーテクノロジーズが手掛ける飲食店の宅配サービス。簡単に言うと出前。登録した個人が自分の自転車などを使って「出前」を請け負う。配達料は購入した顧客が負担する。飲食店側は出前のための人を雇う必要がなく、固定費がいらぬ。

競合先は「出前館」(ジャスダック上場の「夢の街創造委員会」)。こちらは東京、大阪で展開、現在のところ出前ではNo.1。麻布十番でも走っていた。

「時間」×「便利」×「スマホ」=シェア経済。



一口×モ
知識

優秀な人材は集まらない。だから「育てる仕組み」をつくる

「優秀な人材は簡単に集まってくるものではない」という事実です。

優秀な人を採用するためにコストをかけるのではなく、優秀な人材を育てるべく社内に人材育成の仕組みをつくるほうが、時間はかかっても組織の骨格を丈夫にします。

無印良品では、「人材委員会」「人材育成委員会」という2つの機関をつくっています。人材委員会は異動や配置を検討し、人材育成委員会は研修など計画します。

このような仕組みをつくったのは、人材は適材適所で育つからです。

営業が向いていない社員に対して、何年も営業を経験させていては、いたずらに消耗させてしまうようなものでしょう。人には得手不得手があるので、すぐれたパフォーマンスを引き出せる部署に配置するのも、リーダーの役割です。

人の適性を見極めるときにも、個人的な感情には頼らないのが基本です。

松井忠三氏「無印良品は、仕組みが9割」より

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

「戦略社長塾東京」銀座校、五反田校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

